

委員会概要

会議名：平成 29 年度 第 1 回 小浜市地下水利活用・保全検討委員会

日時：平成 29 年 5 月 26 日（金） 16：00～17：30

会場：市庁舎 4 階 大会議室

出席者：委員 14 名（全 21 名委員名簿参照）、日本工営 1 名、事務局 3 名、オブザーバー 1 名

（議事内容）

○協議事項について

（1）分科会について

①分科会（H29.3.31）報告

②分科会の進め方について

→アンケート結果から今後協議していく内容を 3 つのカテゴリーに分けて進めていくことで了承を得た

・ A：項目内での重要度が高いメニュー（上位 1～2 もしくは 1～3）

利活用・保全合わせて 17 メニューあり 2 回の分科会に分けて協議予定

・ B：項目内で重要度が分散しているメニュー（標準偏差の数値が高い）

利活用・保全合わせて 6 メニューあり 1 回の分科会で協議予定

・ C：A・B 以外の項目であり、重要度も平均的で、分散もしていないメニュー

利活用・保全合わせて 16 メニューあり 1 回の分科会で協議予定

※別紙 H 29 年度スケジュール（案）参照

（2）年間スケジュールについて

→提言に向けた具体的な協議を分科会で実施し、10 月の委員会で提言書の素案について協議

（3）黒部視察について

・視察日程について

・質問確認

→委員から出た質問を新たに追加（別紙：事前質問リスト参照）

（4）その他について

・平成 28 年度の委員会での取組みを HP にアップすることについて了承を得た。

→平成 29 年 6 月 1 日に市の HP にアップ済み

議 事 録

会 議 名 : 平成 29 年度 第 1 回 小浜市地下水利活用・保全検討委員会

日 時 : 平成 29 年 5 月 26 日 (金) 16 : 00 ~ 17 : 30

会 場 : 市庁舎 4 階 大会議室

出席者 : 委員 14 名 (全 21 名委員名簿参照)、日本工営 1 名、事務局 3 名、オブザーバー 1 名

(議事内容)

○協議事項について

(1) 分科会について

①分科会 (H29.3.31) 報告

②分科会の進め方

(2) 年間スケジュールについて

(3) 黒部市視察について

(4) その他

・情報公開について

○協議事項について

発言者	内容
会 長	分科会（H 2 9 . 3 . 3 1）の報告について、ご意見があればお願いしたい。
岡委員	消雪時の塩水化について兆候が確認されなかったとの報告は、これまでの電気伝導度測定結果から塩水化の懸念があるとしていたこととどこが違うのか。なにを根拠に兆候が確認されなかったとしているのか。
事務局	兆候に関しては味覚などで感じることでできる変化がなかったことである。
岡委員	塩水化のおそれがある状況から何が要因で兆候がなかったに変わったのか。数字的变化は。
日本工営	2月10日の大雪時前後のデータに関して、地下水位の変化のデータは取れたが、電気伝導度に関しては機器の故障でデータが欠測している。3月に再度電気伝導度を測定したが、2月10日以前の測定値と変化がなかったため、1ヶ月間残るような水質の変化はなかった。しかし、2月10日の実測値はない。また、川崎地区の井戸では2月10日前後も地下水を使用していたが水質変化はなかった。これらの情報から地下水水質の変化の兆候はない結論とした。
岡委員	以前から電気伝導度の数値に関しては、消雪装置稼働後1日経過すれば元に戻っている。1ヶ月後であれば数値は元に戻るものである。また、川崎の井戸も電気伝導度に変化しても味覚が変わらない状況であった。この状況は、以前の塩水化の懸念がある状況と同じではないのか。
日本工営	これまでの調査と2月10日と前後の水質変化が確認できない結果では、塩水化の懸念があるという状況は変わらない。
岡委員	今回の結果から塩水化の問題はない表現ともとれたので確認した。川崎の取水井戸の水位データはあるのか。
日本工営	観測井のデータはあるが取水井戸のデータは確認する。
会 長	今後の分科会の進め方について、アンケート結果の重要度と標準偏差数値を分析して項目内メニューを3つのカテゴリーに分類した。分類分けやカテゴリーごとの分科会の進め方について意見はあるか。
副会長	標準偏差数値で分析することで委員の意見が分かれているメニューがある。反対の意見があることから注意して協議をする必要がある。
岡委員	標準偏差で分けた数値基準などはあるのか。
副会長	数値の基準などではなく、項目ごとに標準偏差の数値が高いものを分類した。
岡委員	保全・利活用の項目で標準偏差の基準は変えているのか。
副会長	保全・利活用の項目ごとで標準偏差の高いものを分類している。
岡委員	平均点の低いメニューについては協議しないのか。
副会長	全てのメニューについて協議はする。
岡委員	メニューに関しては、具体的な内容を今後していくが委員の中で共通認識が必

副会長	要であるとする。
世戸委員	メニューに関して協議はしていくが、時間が限られているため重要度が高いメニューから議論していく。しかし、スケジュールにもあるように平均点が低いメニューについても協議する。
会 長	アンケート結果から順位が高いメニューの内容について黒部視察で取組みなどを結び付けるべきである。
会 長	重要度が高いメニューと黒部市での取組みや施設整備などを関連付けて視察を行いたい。また、3つのカテゴリーに分けたが、委員の思いやアイデアなど具体的な内容の協議はこれからである。分類したことでわかりやすく協議ができるので、より具体的な内容を議論してもらおう。
事務局	今年度のスケジュールについて説明 →異議なし
事務局	黒部市の取組み、視察について説明 →事前質問事項について各委員から追加質問 ※別紙：事前質問リスト参照
事務局	その他について（情報公開に関して） 平成 28 年度の小浜市地下水利活用・保全検討委員会の取組みの経過一覧や名簿についてHPに公開してよいか。 委員各位→異議なし 議事録に関しても名前入りであるがHPに公開してよいか。 委員各位→異議なし
岡委員	これから提言書をまとめる段階に入るが、提言書を提出しただけで終わるのではなく、より提言が実効性のある計画にするためには、なんらかの仕掛けが必要であるとするがどうか。
会 長	一般的な提言ではなく、より具体的な案が提言書の中には必要であるため、分科会では、具体的な内容を協議して頂きたい。
事務局	具体的な内容の提言書であるほど、実現の可能性が高いと考えている。
会 長	具体的な内容の提言書を作るためのアイデアや意見はあるか。
副会長	どこで何をするかまで細かい内容を検討すべきである。また、議論が分かれる内容についてはいくつかの選択肢を示す必要もある。
馬場委員	提言書の提出先は市長であるが、その先の担当者が理解できる内容にする必要がある。
会 長	市長の意見では、より具体的な内容でお願いするとのこと。
馬場委員	例えば、今富小学校のカリキュラムに南川の調査を組み込みくらい具体的なもの

会 長 大村委員	か。 そのとおりである。より細かい具体案が良い。 河川に関するメニューについては、河川管理者との協議が必要。メニューによっては実現が難しいものがある。
会 長	すべてのメニューを実現できる提言書は難しい。メニューの議論については、アンケートの重要度とどこまで実現できる可能性があるかを考えながら協議していくことが必要。
岡委員	提言書に対して、役所は実行しない理由を探す。それを防ぐことが重要である。そのためには、市民へ提言書の内容をどのようにアピールするかが必要。市民の賛同を得ることが、提言内容の実現につながる。市民へのアピール方法を検討すべきである。
会 長	委員会についても広く市民に知ってもらうことが重要。市民に委員会の内容を周知して意見を伺う機会も必要である。また、シンポジウムなどで委員会を市民へ公開して実施することでも良い。
副会長	市民への周知は重要であり、このような委員会が行われていることをアピールすべきである。
竹内委員	宇田川委員が座長を務めていた「名水保護・活用プロジェクトチーム」で提言した内容は、何か反映されたのか。
宇田川委員	提言書の内容が実行された感覚は無い。前回の提言書がこの委員会に繋がっていると思う。
岡委員	小浜市総合計画に提言書の内容を反映させることが重要。そのためにどうするのかを検討すべきである。
会 長	小浜市総合計画に提言書の内容を反映させることは、委員会での合意事項であり、反映する方法などを今後の委員会・分科会で検討していきたい。
竹内委員	市は、総合計画の施策にないと実行しない。そのためには、提言書の中でも必ず総合計画に反映すべき内容を絞る必要がある。
会 長	重要度が高いメニューの中でも、さらにメニュー絞り込んだ議論が必要になる。